

琉球リースだより

新風

【mi-kaji】
みーかじ

第8号

簡単解説

“パツパツ”と分かるリースの話

温故知新

沖縄の名字・歴史再発掘

営業部のお正月風景

いろんなところでリース





取締役副社長
西銘 信治郎



常務取締役
比嘉 朝旬



常務取締役
古城 正彦



常勤監査役
嶋 純一



新年のご挨拶

株式会社琉球リース 代表取締役社長 比嘉 朝松

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は、格別なご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は3月の東日本大震災や原発事故、タイの大洪水による産業の停滞など未曾有の国難の年となりましたが、秋以降は被災地復興の本格化やサプライチェーンの正常化など、明るい兆しが見えつつあります。

新年を迎えた今年、お陰様で弊社は、来る5月10日に創立40周年を迎えます。これは「企業の明日を共に考える」地元のリース会社として、多くの県内企業の皆様の、永年に渡るご支持と

ご支援を賜った証しとして、深く感謝申し上げます。

節目の年となる本年は、これまでの設備投資のお手伝いを中心とした企業活動を一步も二歩も進めて、お客様の真のニーズにお応えする企業として、より地域に密着した取り組みを展開して参りますので、引き続きお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

末尾となりましたが、貴社の益々のご発展と従業員の皆様のご多幸を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

リース

いろんなところで
第8回

リースの対象物件といえば、小さなものはOA機器・パソコンから、大きなものは船舶・航空機に至るまで、広い分野にわたって、お客様のニーズに応じています。

そこで、このコーナーでは、当社が選定したリース物件にスポットを当てて紹介します。

物流を陰で支える “コンテナ”



島嶼県沖縄において、海上輸送は重要なライフラインである。

近年、航空輸送が伸びてきたとはいえ、現在でも貨物の多くが海上輸送であり、そこで基幹的な役割を果たしているのがコンテナである。

● ここは那覇新港の埠頭。

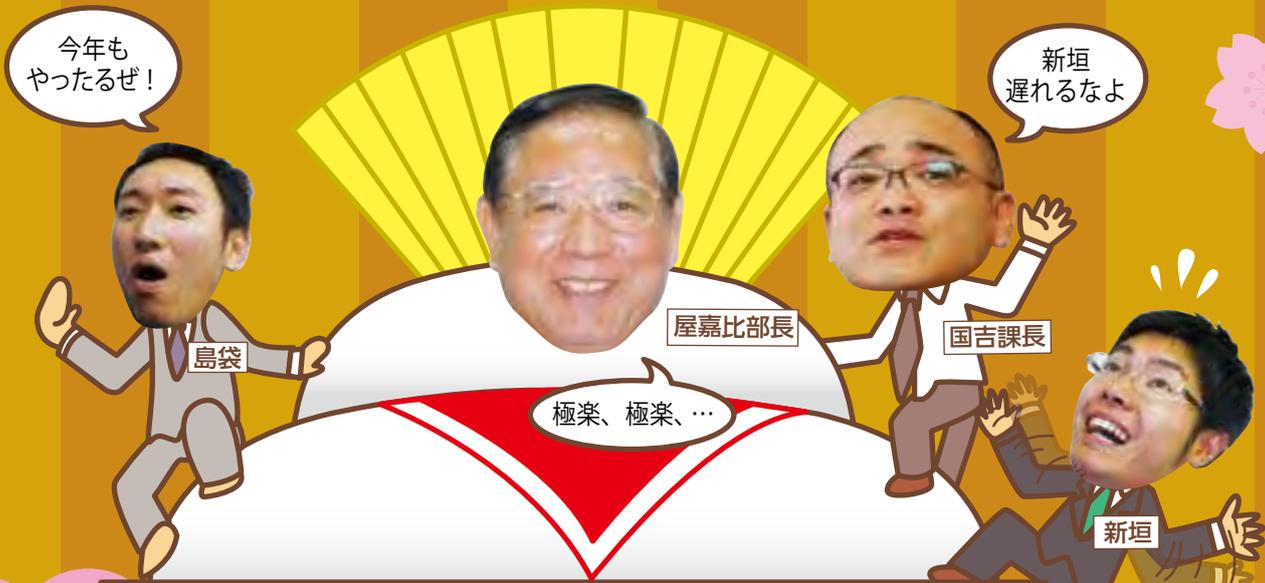
大小のコンテナが整然と並び、船の発着に合わせてクレーンやフォークリフトが慌しく積み降ろしを行っている。

実はこのコンテナ、一見するとタダの鉄製の箱に見えるが、物流に大きな革命を起こしたと言われている。

すなわち、コンテナが出現するまでは、大きさがバラバラな貨物がそのまま船に積載されていたため、船上スペースを有効に利用できず、また荷役作業においても非効率な状況であった。ところがコンテナの出現によって積荷が規格化され、その問題が一挙に解決されたという。

● 私たちの暮らしを陰で支えているコンテナ、あなたがお正月に食べたあの切り餅や昆布も、きっとコンテナという揺りかごで運ばれてきたに違いない。

営業部のお正月風景



“餅”のように粘り強く頑張ります 営業第一部



営業第一部
担当エリア





こんな感じ？

手離してみる？

あいつら何かたくらんでるな〜…

そうだなあ

おー気持ちいいぞ〜♪

比屋根主任

城間係長

池原係長

大城副部長

新垣課長

うまそー

あいつキケン

やめろ〜！

儀武

知花

恒吉係長

国吉

ヒッヒッヒ

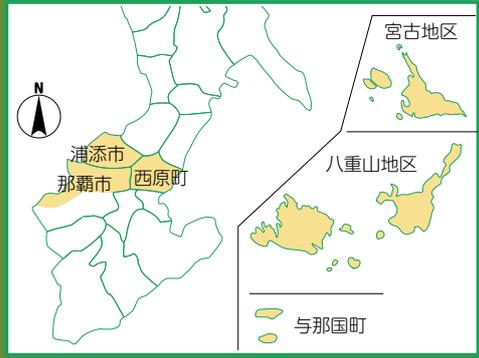
少し多かったかな？

お酒は無いの？

仲宗根主任

渡口部長

営業第二部 担当エリア



“凧”のように臨機応変に頑張ります
営業第二部

いえい！
決まった



恩納主任

何か
気持ちいいかも

それ！
強烈スピ

おい
目が回るぞ～

具志支店長

金城次長

金城

ゴマのよう
スピードで頑
張ります
中部支店



屋比久係長

中部支店 担当エリア



おっと
本気？
よーし...



伊元



喜友名主任

若さで
勝負よ！

こいつまた
寝ぼけている



宮城部長

こら～
冷たいだろ！



宮城課長



武島係長

おいしい
実が成るかな？

ふつ～
水いら
ないよ
ね



平安座



真嘉比小学生6年生が職場見学にやって来た〜!



まずは社長室を見学、少々緊張気味の3人。

小学生「よろしくお願いします。」

今日はいろいろ教えてください。」

社長「OK!何でも聞いていいよ。」

詳しいことは社員が答えるから…。」

弊社 比嘉社長を取り囲む

金城さん(左から1人目)、親里さん(右から2人目)、嘉数さん(右から1人目)



「リース」って何でしょう?

説明が難しいリースという仕事を理解してもらうために、工夫して作成したのがこの資料です。身近にある自転車を題材にしていますが、上手く伝わったかなあ。

いざ、事務フロアへ、社員を直撃!

小学生がビジネスマンと接する機会は滅多になく、聞きたいことを真っ直ぐに質問する姿勢に社員一同タジタジ(汗)。



小学生「どうして琉球リースに入社したのですか?」

社員「沖縄経済のために…
(うわあ、いきなり直球か〜)」



小学生「どんな時に仕事にやりがいを感じますか?」

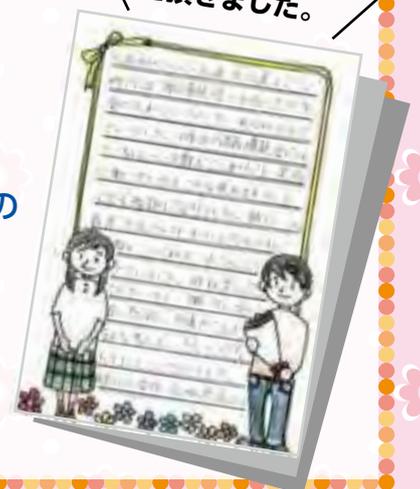
社員「お客様の要望に応えられた時に…
(うまく答えられた、ほお)」



小学生「お給料はいくらもらっているのですか?」

社員「えっと、…
(答えにくい〜、将来会社選びの参考か?)」

後日、お礼の手紙を頂きました。



3人の目の輝き、真剣な眼差しを見て、多少なりとも地域社会のお役に立てたと実感できる一日でした。
(受入担当: 営業企画部 比嘉亜沙美)

パッパッパッ！と分かる

リースの話

このコーナーでは、リースに関するホットな話題、お役立ち情報などを出来るだけ簡潔にお伝えします。

第8回

「お困りごとと解決への取り組み」 〜介護施設編〜

早来主任 「社長、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願います。」

須場社長 「やあ、おめでとう。こっちは、よろしくな。」

早来主任 「今年は昨年の二倍くらいお世話になりたいと、勝手に思っていますので・・・(笑)」

須場社長 「そうか、今年はリースが終わる設備や車両が多いので、その代替えを狙っているな。ところで、先日、オレの模合仲間が君の会社のことを話していたぞ。何でも、琉球リースでは介護施設にいろいろリースしているそうだな。」

早来主任 「はい、そのとおりです。社長もご承知のとおり、最近各地に介護施設が増えていますので(注①)、取引も年々増えているんですよ。」

須場社長 「そうか、オレも将来施設にお世話になるかもなあ。その時は顔を見せてくれよ。」

早来主任 「もちろんです。とっくにどの施設に入るんですか?」

須場社長 「・・・。話を元に戻そう。模合仲間から聞いた話で

は、車イスのまま乗り降りできる車をリースしているらしいね。」

早来主任 「はい。お体が不自由な方が施設に通えるように、車イス仕様車を積極的にリースしています。」

須場社長 「そうなんだ。時々、介護施設の車を見かけるが、ああいう特殊な車(注②)はリースできないと思っていたよ。」

早来主任 「やはり一般的にはそう思われているんですね。でも、随分前からリースでご利用頂いていますよ。」

須場社長 「ところで、ああいう特殊な車が故障した場合、どうするんだ?」

早来主任 「おーっ、鋭いこと聞きますねえ。実は、そこが当社売りなんですよ。」

須場社長 「ほーっ、我社の事業とは全く関係ないけど、聞いてほしいような顔をしているから一応聞いておこうか。」

早来主任 「ぜひ聞いてください。そして、お知り合いの介護施設の方に宣伝してください。」

須場社長 「おっと、そう来たか。それは内容次第だな(笑)」

早来主任 「大丈夫です、画期的ですから。実は昨年、代車を提供

できるようになったのです。」

須場社長 「代車?、どこが画期的なんだ?」



アカバナー商事
すば
須場社長



琉球リース
そうき
早来主任

注① デイケアとデイサービスを例にとると、平成十五年比の約二倍となり、現在では五百施設を超えています。

注② 他にも、ごみ収集車、ミキサー車、タンクローリー、クレーン車、レッカー車、路面清掃車、空港作業車等がありますが、弊社ではこれらの車もリースしています。

早来主任 「はい、これからご説明いたします。車検を受ける時などに整備工場に代車をお願いするのはよくあることで

すが、このような特殊な車の場合、同じタイプの代車はなかなか無いんです。仮に提供されたとしても、せいぜいワゴン車です。それだとリフト(注④)が無いので車イスの乗り降りが大変です。」

須場社長 「なるほど、リフトが無いと職員も力仕事になるから大変だな。」

早来主任 「はい。かといって、車検の時に送迎を止めるわけにもいかず、施設はその対応に苦慮していたようなんです。そこで、当社は施設の送迎業務に支障がでないように、車イス仕様車の代車提供をリースにセットするサービスを始めたのです(注④)。」

須場社長 「ほおー、さすがだな。」

早来主任 「ありがとうございます。でも社長、助かるのは施設だけではないんですよ。」

須場社長 「どうして？」

早来主任 「工場も代車があればその間、入念に整備ができるんです。」

須場社長 「お互いハッピーというわけだ。では、リフトが故障した場合、修理はどうするんだ？」

早来主任 「大丈夫です。定期的に点検するほか、万一故障しても修理もバッチリです。」

須場社長 「へっー、至れり尽くせりだな。」

早来主任 「はい。施設には介護サービスに専念して頂きたいので・・・。」

須場社長 「新年早々、かつこいいこと言っなー」

早来主任 「まだ始まったばかりのサービスですが、施設担当者からは、よくぞ現場の声をカタチにしてくれたと好評です。」

須場社長 「そうか、他にも何か取り組んでいることがあれば教えてください、知り合いに宣伝してあげてもいいぞ。」

早来主任 「ありがとうございます。こういう話は口コミで広がるほうが反応が良いのでぜひお願いします。」

須場社長 「まかちよーけー。」

早来主任 「そう思っています、このチラシを百枚お持ちしました。」

株式会社環球リース

医療機関・介護施設向け **プラス**
車いす仕様車 “あんしん” + リースのご案内
 “フルメンテナンス・代車サービス”付リース

「毎日運行しているので、リフト付の代車がないと困る。」
 「リフトの不調は、送迎業務に支障をきたす。」など、
 医療・介護の現場スタッフの声から生まれました。



下記サービスをワンパッケージ、ベストコンディションの車を“安全・安心・快適”にご使用頂けます。

車両購入 ・車両本体・付属品・特別仕様 費用・税金の支払い・納付 ・登録費用・取得税・自動車税・重量税 保険の付保・支払い ・自賠責保険・自動車保険	メンテナンス ・スケジュール点検・法定点検・ 継続車検・故障修理 ・タイヤ・バッテリー・オイル・消耗品 の交換 ・リフトの点検整備・故障修理 ・代車の提供
--	--

■商品内容・料金等、詳しくは下記窓口までお問い合わせ下さい。
 株式会社環球リース 車両推進部 TEL 098-866-5500

注③ 車イスを乗せて昇降する装置。

注④ 代車の提供を受けても費用の負担はありません。

注⑤ 内容に関するお問い合わせは弊社車両推進部までお願いします。詳しくご説明いたします。

(注⑤)

※本コーナーは、わかりやすさを第一に誌面を構成しているため、厳密には正確でない記述が含まれている場合があります。ご了承ください。

沖縄の名字・歴史再発掘

みなさんは、常識だと思っていた歴史上の出来事の説明が「実は間違いかも知れない」と知って驚いた、という経験がありませんか。実は沖縄の歴史にも、もう一度確認した方がよい歴史上の出来事があるようです。

今回は沖縄の名字が成立する過程で「薩摩藩が日本風の名字を異国風に変えた」という出来事について見ていきましょう。これについて、沖縄学研究者の比嘉春潮は、1961年(昭和36年)に発表した論文「沖縄人の姓について」で、「島津氏はその琉球統治政策の上から、寛永元年(1624年)、「大和めきたる名字」を用いることを禁じた。このことによって薩摩人らしい名字の沖縄人は、その姓

の表記漢字を変えたとのことである」と述べています。「大和めきたる名字」とは日本風の苗字のことです。

しかし、琉球王国時代の諸史料には〈屋嘉比〉や〈瑞慶覧〉など特徴的なものと並んで〈山口〉や〈平田〉など日本風の苗字も出てきます。これはどういうことなのでしょう。

その理由を探るために、歴史を遡ってみましょう。すると、沖縄学研究者の真境名安興という人物が浮かび上がってきます。真境名は1924年(大正11年)に発表した論文「本県人の姓名に就ての史的観察」で、薩摩藩が琉球を外国風に見せるために、わざと命令まで出して日本風の名字や名前を

禁止したと指摘しています。それでは薩摩による禁止令が出される前は、どのような名字だったのでしょうか。真境名は「古記録に依って見ると本県人の固有の姓名は本土とさほどの相違はなかった」としています。その証拠として〈与古田〉や〈真栄田〉は〈横田〉や〈前田〉だったと説明しています。

この論文は日本風の名字禁止令にふれた名字研究において最も古いものなので、「薩摩藩が日本風の名字を異国風に変えた」説の最初の提唱者は真境名だと考えられます。

ところで、日本風の名字禁止令とはどんな内容だったのでしょうか。これは1624年(寛永元年)に薩摩藩家老三名の名によって出

された「定」という文書にあるもので、「一 日本名を付日本支度仕候者、かたく可為停止事」、つまり日本風の名や日本風の身づくろいを強く禁止しており、確かに禁止令が出されたことがわかります。

禁止令は出ていますが「日本名」つまり日本風の名字があるということは、琉球の人々は禁止令を守らなかったのでしょうか。これについて沖縄近世史の研究者である田名真之氏は、この説の矛盾について、次のように指摘しています。

まず命令の出された当時

は、地名および名字の表記が、平仮名から漢字へと移っていく段階であり、さらに漢字表記の場合でも「充当文字」、つまり使用する

漢字が決まっていなかったというのです。そして、真境名が指摘した〈与古田〉や〈真栄田〉の以前の姿が〈横田〉や〈前田〉であっ

たという具体例が確認できないというのです。したがって田名氏は、「推測の域を出ないのであるが、

はないか」としています。世間では定説になっている「薩摩藩が日本風の名字を異国風に変えた」という出来事は、約90年前の学者である真境名安興の説が受け継がれてきたものであり、もう一度検証をしなければならぬようです。



【国王頌徳碑（那覇市）】

1543年に建立された碑文で、漢字表記以前の表記方法となっている。右より「大さと（大里）」、「きすし（宜寿次）」、「ミヤ平（宮平）」、「花くすく（花城）」。（強調のため筆者一部画像加工）

天啓4年の禁止令（筆者注、1624年の「日本名」禁止のこと）は一応、琉球統治政策の一環として、占領者としての意識から生み出されたもの、実行されなかったの

参考文献：沖縄県姓氏家系大辞典編纂委員会編

『角川日本姓氏歴史人物大辞典』47 沖縄県姓氏家系大辞典』（角川書店、1992）

『角川日本地名大辞典』編纂委員会、竹内理三編『角川日本地名大辞典』47 沖縄県』（角川書店、1986）

お答えします！ リースについて

Q 琉球リースのリース車の数が、県内で走行するタクシー台数より多いと聞きましたが、本当でしょうか？

A 本当です。
平成 23 年 3 月 31 日を基準に比較すると、タクシーより約 1,900 台多く、実に約 1.3 倍の台数規模となります。

県内タクシー台数



(沖縄総合事務局統計資料より)

琉球リースのリース車台数



(割賦販売台数分を除く)

とはいっても、この数字を見て「えっ、そんなにあるの？ でも、リース車が走っているのを全然見かけませんが…」という方が中にはいらっしゃるかもしれません。

大変残念ですが、通常リース車を見分けることはできません。

なぜなら、リース車はナンバープレートも通常の車と変わりがなく、また車体に特別なマークを付けることもないからです。

皆様にご実感していただくことはできませんが、今日の県内トップクラスの実績は、県内初のリース会社として、長年オートリースを手掛けてきた「皆様のご支持」そのものと考えています。

企業の経営効率化ニーズがある限り、これからも琉球リースは「ビジネスの足」をバックアップしてまいります。

琉球リースは、新車・中古車、軽自動車から大型車まで、車種・仕様を問わず、企業の自動車導入に“最適”をご提案します。



〒900-8550 沖縄県那覇市久茂地1-7-1
 本社：TEL 098-866-5500
 中部支店：TEL 098-939-4880